

むつに八学大キャンパス

看護系、来年4月開設

むつ市と八戸学院大学（八戸市）は5日、むつ市役所で記者会見を行い、同市に同大健康医療学部看護学科に特化したサテライトキャンパスを来年4月に開設すると発表した。1学年10人を予定しており、今年5月から募集を開始する。同市に看護系の高等教育機関ができるのは初めて。同大を運営する学校法人光星学院の法
官新一理事長は「将来はむつ下北地域における医療福祉、健康増進の拠点になることができれば」と語った。

（山内はるみ）



八戸学院大のキャンパス開設を発表した山本市長（左から2人目）と法
官理事長（同3人目）ら＝5日、むつ市役所

1学年10人予定

医療従事者が不足する中、地域での人材育成に
なげよつと市が同大にキャンパス開設を打診した。同市にはかつて田名部高校衛生看護科があったが、2004年に閉科。市によると、同市では毎年20、30人が看護を学ぶために市外に進学するといつ。

山本知也市長は「将来の

地域医療を維持する上で看護師は非常に重要な役目を担う。看護師になりたいむつ下北の子どもたちが、地元で学べる機会をつくるのが大事」と語った。
同大は今後、学内のプロシエクトチームでカリキュラムや施設・環境整備の詳細を検討していく。むつ総合病院近くに新たに建設さ

れる建物をキャンパスとして利用する計画で、市が賃料を補助する方針。法官新一理事長は「私たちの力を發揮する場がむつ下北に広がれば大学の認知度も高まる。看護人材育成の幅も広がり、学生が増えることも考えられる」と期待を込めた。
むつ総合病院を運営する一部事務組合下北医療センターの管理者でもある山本市長は、同キャンパス卒業後に同病院で一定期間勤務することを条件にする新たな貸与型奨学金制度を創設する考えも示した。
同市には20年4月に青森明の星短期大学下北キャンパス、22年4月に青森大学むつキャンパスが開設。八戸学院大は3校目の高等教育機関となる。